

新大臣あいさつ



食の安全の確保と、国民の信頼をさらに深めるための努力を。

食品安全担当大臣に就任した泉信也参議院議員が、第205回食品安全委員会会合(9月6日)に出席し、挨拶を述べました。

泉 信也 内閣府特命担当大臣(食品安全、防災)／国家公安委員会委員長

この度、食品安全担当大臣を拝命いたしました泉信也でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

食品安全委員会が発足した平成15年以来、それぞれのお立場で、国民の健康の保護を最優先に、科学に基づく食品安全行政の確立・推進に取り組んでいただきましたことに改めて心から感謝を申し上げます。これもひとえに、見上委員長を始め、諸先生方のお力添えのたまものでございまして、心から敬意を表するものでございます。

しかし、食品に関します諸々の問題は時と共に大変多様化しておりますし、複雑化しておるといのが実態でございまして、国民の命を守るという観点からいたしましても、

いささかなりともゆるがせにすることができない大変重要な国政の課題だと思っているところでございます。国民の生命の源であります食品の安全を確保いたしますためにも、また国民の信頼を確かなものにいたしますためにも、これからも先生方のお力添えを是非お願い申し上げたいと思います。

食品安全委員会におかれましては、今後とも引き続き、食品安全行政に対する国民の理解を深め、信頼を高めますために御尽力いただきますようお願いいたしますとともに、担当大臣として積極的に努力させていただきますことをお誓いし、御挨拶いたします。ありがとうございました。

食品安全委員会、5年目に向けて。

この7月に設立4周年を迎えた食品安全委員会は、その節目として7月26日の第200回会合において、5年目に向けた意見交換を行いました。(文中の肩書きは7月26日時点のもの)

会議は、高市早苗食品安全担当大臣の挨拶が東良信内閣府審議官により代読された後、まず、昨年のポジティブリスト制度導入以来、数多くの農薬のリスク評価を進めている鈴木勝士農薬専門調査会座長から意見が述べられました。

鈴木座長は、食品安全委員会は、農薬のリスク評価に多くの実績を上げてきたことや、情報公開の透明性



鈴木農薬専門調査会座長

の高さにおいて世界的にみても大変進んでいることなどを紹介。また、約800にもぼる農薬のリスク評価を5年間で行うことの難しさに関連して、マンパワーの確保、リスク分析に携わる人材養成の重要性等が今後の課題であると提言しました。

次に、食中毒原因微生物について自ら行う評価(P2参照)に関し、春日文子微生物・



春日微生物・ウイルス合同専門調査会専門委員

ウイルス合同専門調査会専門委員より、「鶏肉を主とする畜産物中のカンピロバクター」のリスク評価を行うことを決定したことについて紹介。また、評価に当たっては、確率論的な数理統計技術を持った専門家が非常に少ないため、今後は科学的なリスク評価を支えるシステムの確立が重要であると提言しました。

食品安全委員会委員からは、農薬のリスク評価における問題点や、新たなデータが出てきた際の再評価の必要性が指摘され、また、消費者がもっと情報を共有でき、リスク評価の内容について知る機会となるようなリスクコミュニケーションを推進していくことの重要性など、5年目の活動に向けた新たな決意が述べられま

した。

最後に東内閣府審議官から「多数の案



見上委員長

件に対して、急ぎながらも正確な評価を期している農薬専門調査会の姿勢に賛同します。また、食中毒原因微生物のリスク評価については、国民の重大な健康問題に関わるため、データ収集能力の向上を図りながら、粘り強く実施して欲しい」との発言がありました。

昨今の食品偽装や輸入食品問題などによって、消費者の食の安全への関心はさらに高まっています。消費者が自らの考えと行動で食の安全を実感できるよう、食品安全委員会は、情報公開や、その情報へのアクセスのしやすさなどをもっと大きく進め、国民の健康に貢献していきたいと考えています。